

1.3.1 道路の機能上の分類

道路はその主たる機能によって、地域間あるいは都市間を連絡する域間道路と、地域内あるいは都市内の必要に応えるための域内道路とに分類することができる。また、域間道路、域内道路それぞれに、主要な幹線道路、幹線道路、補助的な幹線道路および幹線ではない道路、といった階層的な分類をすることもできる。

域間道路は主に通行機能が重視されるが、階層や交通需要に応じて提供すべき通行機能の質は異なる。一般により幹線的で長距離にわたる域間道路ほど高速性、大量性が求められる。反対に、山間部の集落相互を結ぶような域間道路では、高速であることはさして重要ではなく、相互に往来できること自体に意義があることが多い。

域内道路は通行機能に加えてアクセス機能、空間機能も重視される（通行機能、アクセス機能、空間機能などについては、第3編1.2節を参照）。都市内の幹線的な道路はその都市あるいは都市内区域の骨格を形成し、防災、環境といった空間機能とともに、比較的の高速、大量の通行機能を持つが、アクセス機能はやや限定的となる。その対極として、幹線ではない道路として都市内に密に配置される区画道路は、空間機能とともに主として各戸のアクセス機能を担っており、通行機能は必要最小限度に制約されるのが普通である。